

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 38 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2015 年 8 月 24 日 (月) 13:30~15:00
2. 場 所 (一社) 原子力安全推進協会 A 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 三山 (幹事), 望月, 遊佐, 広木, 矢野,
下家, 石井 (猿渡代理), 伊藤, 上坂, 中川, 萬年, 中川, 大城戸,
一森 (16 名)
(欠席委員) 大木, 橘高, 新井, 三好, 金島 (5 名)
(常時参加者) 本田, 天間, 室 (館代理), 伊藤
(傍聴者) 松藤
4. 配布資料
資料P14SC-38-1 第37回PLM分科会議事録案
P14SC-38-2 人事
P14SC-38-3 PLM実施基準2015年版 (追補1) 公衆審査結果
P14SC-38-4-1 PLM実施基準2014年版 (本格改定) の発行方法 (案)
P14SC-38-4-2 PLM実施基準2015年版 (追補1反映版) (案)
P14SC-38-4-3 PLM実施基準2015年版 (追補1反映版) の修正
P14SC-38-5 PLM実施基準2014年版 (本格改定) の講習会準備 (案)
P14SC-38-6 経年劣化メカニズムまとめ表2016年版 (追補2) 案の確認状況
P14SC-38-7 PLM実施基準改定のスケジュール
5. 議事
会議に先立ち, 出席委員は 16 名で, 定足数を満足している旨確認した。
 - (1) 前回議事録確認 (P14SC-38-1)
幹事より, 第 37 回 PLM 分科会議事録 (案) が紹介され, 承認された。
 - (2) 人事 (P14SC-38-2)
 - ・委員の退任
猿渡委員, 三山委員の退任が報告された。
 - ・委員の新任
新委員として九州電力の石井氏が推薦されている旨説明され, 審議の結果新委員として選任された。
 - ・常時参加登録の解除
北陸電力の館氏の常時参加登録の解除が報告された。
 - ・常時参加登録の承認
北陸電力の室氏から常時参加登録の希望がある旨紹介があり, 審議の結果常時参加

が承認された。

(3) PLM実施基準2015年版（追補1）公衆審査結果（P14SC-38-3）

追補1の公衆審査の結果、コメントがなかったことが報告された。

(4) PLM実施基準の発行方法（案）（P14SC-38-4-1）

2014（本格改定版）の発行に2015（追補1）の審議が追いついてきているため、本格改定版に追補1の内容を反映して発行する案について審議した。本体は本格改定版に追補1の変更点を反映し、別冊は追補1に置き換えて発行することとなった。2015年版（追補1反映版）とすると2014年版の範囲が不明瞭という意見があり、2015年版と呼んだ方が分かりやすいため、2015（本格改定版）とすることとなった。

標準の電子化について、コピーガード等は設けず、フッターにコピーライトを記載する案が承認された。

(5) 修正（P14SC-38-4-3）

2015年版の修正案（参考文献の追加、図タイトルの追加、まとめ表の編集上の誤記）が承認された。

学会事務局から2008年版の誤記チェックを実施するという情報があったことが紹介された。電気協会でも同様の確認を実施しており、重要度に応じて誤記をA~Cにランク付けし、AについてはNRAに報告している。また、エンドース版と改定版の両方をチェックしている。

PLM基準のまとめ表は誤記チェックをしにくいいため、やり方を考えておく必要がある。

(6) 講習会（P14SC-38-5）

講習会の概案が紹介され、以下のような意見が出た。具体的な話が挙がり次第、再度相談することとなった。

- ・おそらく電気事業者の若手社員や、保守管理に携わる方が主な対象となる。NRA、学生の参加も想定している。
- ・秋に発行されると、年末～年始程度に開催されると思われる。
- ・基準購入を必須とすると受講のハードルが上がるので、考慮する必要がある。
- ・機器固有の具体的な事例はBとPを分けて実施することも検討した方が良い。

(7) 追補2の確認状況（P14SC38-6）

確認状況が報告された。12月のシステム安全専門部会で本報告することを目標に確認を実施していく。

7. 今後のスケジュール等

次回分科会は11月12日13時30分から原子力安全推進協会で開催することとなった。誤記対応として対応が必要な項目があれば、別途メールで連絡することとなった。

以上